

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に目標値や北区の平均正答率、全国の平均正答率を上回っている。 ・内容別正答率では漢字の読みが目標値を下回り、書きは全国平均を下回っている。普段の漢字テストや定期考査についても漢字力がやや身についていない様子が見られる。授業の中で数多く取り入れていく必要がある。 ・文法や説明文の読み取り、作文についてはかなり目標値や全国平均を上回っているため、ある程度の読解力は小学校で身に付けてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す、聞く能力」についてはできる限り授業で取り入れていく。正答率が高いが、さらに伸ばすためには班での話し合いや学級の話し合いを多く取り入れていく。 ・「書く能力」についてはある程度の力は身につけているが、さらにテーマを細かく設定して具体的に文章を書いていく練習をさせていく。 ・「読む力」は説明文や文学的作品の読み取りはかなりできるが、文学的作品の読み取りのほうはやや低い。たくさん作品に触れさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く能力」では作文の書き方は、小学校である程度のパターンが身につけている。が、そのために画一的な構成になりがちである。中学校ではパターンにとらわれず、自分の考えを系統的に書き表せるように指導していく。 ・漢字の読み書きは日々の積み重ねが大切なので新出漢字はもちろん、常用漢字を覚えるために、問題集を使って週1回10問テストを行う。さらに漢字検定にチャレンジするよう助言する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別正答率では、「言語についての知識・理解」以外は、全国・北区の正答率を上回っている。 ・問題の内容別正答率では、文学作品の読み取りは、北区の正答率を0.4ポイント上回っているが、説明文の読み取りは、0.8ポイント下回っている。 ・漢字の読みは、目標値は超えているものの、北区の正答率を0.2ポイント下回っており、書きの方は4.7ポイントも下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、文法・語句に関する知識・理解が、3.1ポイントも下回っていたのは、品詞の分類の学習が、本来の学習計画より遅くなってしまったのが原因と思われる。(夏休み直前にまとめて学習した。) ・漢字の読み書きや、語句の学習は、毎時間10分間の小テストを行っているため、今後も年間通して続けていく。また、現在行っている読み聞かせや、天声人語の書き写しの中で、中学生として知っていて当然と思われる語句がたくさん出てくるので、確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く能力」は、北区の平均正答率を3.6ポイントも上回っている。今後も、書く機会を増やして書く力をつけていきたい。 ・2学年には、中国から来日1年未満の生徒が2名、3年未満の生徒が2名、小学校の時に来日したもののいまだに日本語が十分でない生徒が1名、計5名の中国人生徒がいる。彼らが国語の授業に参加できるように補習を行っている。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別正答率の結果では、「話す・聞く能力」が全国、北区の正答率を上回っている。 ・「読む能力」については、北区平均を下回り、全国平均も僅かに下回っている。 ・「書く能力」、「言語についての知識・理解・技能」は、特に全国、北区の正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く能力」を伸ばすための方策としては、単に作文課題を増やすのではなく、例文をもとに意味を変えずに「書き換え」作業をさせたり、相手の誤解を避けるための表現上の注意に触れるなど、説明と添削作業を積み上げていく。 ・「言語」事項に関しては、慣用句や漢語表現などの意味用法をおぼえさせるとともに、文法に関しても、日常の表現において誤りがないかどうかの点検をさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」作業を、授業内で多く取り入れていく。また、授業内で十分に理解できない生徒が出た場合は、放課後等に補充学習を行っていく。 ・慣用句や漢語表現などの意味用法の理解を深めていくために練習プリントを用意し、反復練習を積み重ねることで定着を図っていく。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立赤羽岩淵中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>・全体として小学6年の学習内容は十分に定着していると考えられるので、これを伸ばすとともに、定着が充分でない生徒の力を引き上げる必要がある。</p> <p>・鎌倉・室町時代の学習内容の定着は不十分だったと考えられるので、これを補う必要がある。</p>	<p>・資料の読みとりを授業で多く取り入れ、言葉で表現したり、発言したりする機会を増やす。</p> <p>・小学校での既習内容を活かし、そこから発展させて新たな内容・視点を加える形で授業を進める。</p>	<p>・自分が理解したことを、他の生徒にもわかるように説明させる機会を増やす。</p> <p>・小テストやプリントなどによって知識の定着を図る。</p> <p>・鎌倉・室町時代については、基礎的な知識の復習・確認も行いながら、進める。</p>
2年	<p>・全体的に、1年生で習った内容の定着に課題が見られる。特に、緯度と経度をもとに地図を読み取る問題や、西暦の年が何世紀にあたるかを答える問題の正答率の低さが目立った。教員が授業で説明しただけでは、なかなか理解できていないようである。</p>	<p>・資料の読みとりを授業で多く取り入れる。</p> <p>・1年生で習った内容の復習を授業に取り入れる。特に緯度、経度のところや世紀のところは、もう一度復習する時間を設定する。</p>	<p>・知識の定着を図るような問題だけでなく、資料を読み取って解くような問題を定期的に解かせる。</p> <p>・授業中に、資料から読み取った内容を発表するような場面を増やす。</p>
3年	<p>全体として1・2年の学習内容の定着度に課題があるので、それを補う必要がある。</p> <p>知識の定着という面における個人差が大きいので、それを考慮して授業を行う必要がある。</p>	<p>1・2年の学習内容が積み残されており時間的に厳しいが、3年の内容をわかりやすく説明して進めるとともに、1・2年の内容の復習を授業に取り入れていく。毎時間取り組みやすい宿題を出し、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>前の授業の復習を毎回短時間行い、知識の定着を図る。</p> <p>生徒による作業・発表・説明の時間を増やすことで、資料活用・表現力・理解力を伸ばす。</p>	<p>1・2年の内容が定着していない生徒を中心に、復習を夏季休業中に行う。</p> <p>1・2年の内容の演習を授業中に行うことで、知識を補充・発展させる。</p> <p>内容理解が進んでいる者には、発展的課題の学習プリントを与え、資料活用能力を高めさせる。</p>

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（数 学）

東京都北区立赤羽岩淵中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>整数・小数・分数の計算については、概ね理解できているようだが、四則混合の計算になると、理解不足で、計算順序をまちがえる生徒が多い。</p> <p>・点対称な図形についての理解が不足している。</p> <p>・4種類の玉を1列に並べるときの並べ方を求める問題では目標値をはるかに超える正答率だが、「4種類の中から2種類選ぶ」という問題になると、正答率が目標値以下になる。</p>	<p>理解はしていても、計算力として身に付いているかどうかは別である。計算力を身に付けさせなければならない。そのためには、①計算方法の理解、②計算の習熟に努める、ことが大切である。授業の最初に、プリントでの確認問題を行う。プリントは、計算が苦手な生徒でも取り組みやすいよう、なぞればできる問題を入れておく。点対称については、具体物を持って内容を確認する。場合の数は、変化をつけて、繰り返し学ぶようにする。</p>	<p>・プリントで、それまでの学習内容についての復習を行う。なぞればよい問題を入れ、そこで計算方法について復習できるようにしておく。補充的な意味を含めて行っている。</p> <p>・生徒が熱中しそうな発展的な問題を準備しておき、時間を見つけて行う。プリントではすぐにあきらめてしまう生徒がいるので、1枚に何題か載せておき、選択して解けるようにしておく。</p>
2年	<p>教科の正答率は目標値、全国平均よりも上回っている。問題内容、領域別、観点別ともに目標値よりも上回っている。</p> <p>しかし、問題別に見ると、目標値を下回っている問題がある。</p> <p>・文字式の分数計算問題 ・正負の数の大小関係をあらかず問題 ・1次方程式の文章問題 ・球の体積を求める問題 ・最頻値を求める問題</p>	<p>分数が入った計算問題については、計算力が身につくために演習の時間を多く取り習熟を図る。</p> <p>文章題については、文章を読み取る力をつけるために、問題文に下線を引き、線分図や表を書き、条件を整頓してから式を作るようにさせる。</p>	<p>少人数授業の中で、個に応じた指導を行い、学力の定着を図る。基礎コースの生徒には、基本的な類似問題を繰り返し取り入れることで習熟を図る。標準コースの生徒には、発展的な問題にも取り組み、より高い興味関心が引き出せるように工夫する。</p> <p>長期休業を利用して基礎的な補充を行い、計算力の向上をはかる。導入の場面や単元末に発展的な学習を行う。</p>
3年	<p>教科の正答率が全国平均を下回っている。知識の定着に課題がある生徒が多い。技能については定着している生徒が多いが、なぜそのようにするのかを理解せず、方法だけを身につけている生徒がいると考えられる。「なぜ」そのような方法で解くのかを考えて身につけるような指導が必要である。</p> <p>また統計分野に対しての苦手意識を少なし、取り組むことができるような指導を工夫する。</p>	<p>図形分野においては、合同カードゲームやシュミレーションソフトの活用、演習問題を通して、何が仮定で何が結論なのか読み解く能力の育成、合同条件のどれが適用できるのか図形の中から導き出し、対応関係に気を付けながら記述する能力の育成を図る。</p> <p>統計分野に関しては、専門用語の確認をしたうえで、実生活における統計に重きをおいて、身近に感じられる工夫の行う。</p>	<p>習熟度別学習において、基礎コースの生徒には基本的な問題の繰り返し学習をはかり、基礎の定着を徹底する。発展コースの生徒には問題解決型の学習形態を多く取り入れ、自ら課題を見つけ、自己解決する力の育成を図り、達成感を持てるようにする。</p> <p>教え合い学習の機会を持つ。</p> <p>模試形式の問題に多く触れ、既習事項を活用する能力の育成を図る。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>教科の正答率は目標値、全国平均より下回っている。内訳をみると、基礎の内容は目標値を上回ったが、全国平均からは-0.9となっていて、活用は目標値、全国平均から-3.9、-2.8となり全体を通して活用する力が不足している。領域別にみていくと、物質・エネルギーにおいて、水よう液の性質や電気の利用のみ、生命・地球において大地のつくりと変化のみ全国平均を上回っている。生命の領域において課題が見られる。観点別にみていくと、内容の理解のみ目標値に達していない。今後は、用語や構造等を正確に理解できるようにモデル等を活用していく必要がある。</p>	<p>内容理解のために、一つのことを学習する際には、文章や図、表など複数の表現方法を用いて、対応させながら学習を進めることで、授業後に整理しやすいようにしていく。活用の力が不足しているため、知識や実験のデータ等からわかることを用いて考察する力を授業における観察・実験の時間に行っていく。また、科学的な現象や観察・実験の結果を文章にまとめて表現し、話し合う活動を行っていくことで活用する力を身に付けさせる。</p>	<p>①見やすいノートづくりのため、図や表、グラフを多く取り入れる。②映像・写真、モデルなど視覚的な教材を取り入れる。③定期テスト前や夏休みに基礎的な内容を理解できていない生徒に対する補習を行う。④ワークシートの内容が充実するよう、絶対にできないといけない問題、基本問題、応用問題と3段階のレベルの問題をつくり、確認を取る。できていない問題は解説を行う。</p>
2年	<p>教科の正答率は目標値、全国平均よりも下回っている。全国平均及び目標値を上回っているのは力と圧力(+6.2)の内容のみであり、全体を通して基本的な内容が不足している。観点別正答率は目標値に比べて7.7~-3.3となっており、最も低い観点が観察・実験の技能である。観察・実験の技能の習得及び内容の理解が不足している。今後は実験の目的を明瞭化するとともに実験の手法や意味、内容の充実を図っていく必要がある。</p>	<p>実験の目的を授業の始めに確認を取り、学習の狙いをはっきりさせる。そのうえで実験や観察をきっかけに、興味・関心を高め、結果から現象の理解が深まるような授業を進めていく。実験の結果がまとめやすいようにワークシートを工夫し、後で見たときにも復習しやすいプリントづくりをするとともに、記入時に「実験の目的意識」をしっかりと持ちながら進めていくことができ、今日学習したことがわかったと思える内容を充実させていくことで、学習内容の確認と定着を図っていく。</p>	<p>①見やすいノートづくりのため、絵や図を多く取り入れる。②授業の取り組みの中で、内容について分かったことを発言させ、クラスで同一の理解を持った状態で先に進めていく。③定期テスト前や夏休みに基礎的な内容を理解できていない生徒に対する補習を行う。④ワークシートの内容が充実するよう、絶対にできないといけない問題、基本問題、応用問題と3段階のレベルの問題をつくり、確認を取る。できていない問題は解説を行う。</p>
3年	<p>教科の正答率は、区平均-0.1と下回っている。目標値には5ポイント及ばない。また、動物、気象の分野が-9.3~-1.4となっており週1回で並行履修している影響と考えられる。内容別・領域別に分析すると、電気の分野は+4.6~+10.1となっているが、湿度や物質の結びつく割合など数値化して考える分野の理解が不足している。今後も実験・観察をきっかけに「意欲・関心」を高めるとともに、実験結果を自分でまとめていくような機会を増やすよう授業改善していく必要がある。</p>	<p>実験・観察をきっかけに学習の狙いをはっきりさせ、その結果から現象の理解が深まるような授業を組み立てていく。実験の結果がまとめやすいようにワークシートを工夫するとともに、記入時に「実験から分かったこと」の内容を充実させていくことで、学習内容の確認と定着を図り、理解が深まる中で興味関心が高められていくよう指導していく。また、入学以来継続している「後で見たときにわかりやすいノート作り」を指導する。集中できない生徒や理解が進まない生徒も多いので図や映像の活用・モデル化した解説などの工夫をしていく必要がある。</p>	<p>①文字や言葉だけでなく実験や・映像・写真など視覚的な要素を取り入れる。②日常の取り組みの中で、内容について分かったことをきちんとまとめ、理解を深めると共に、表現する力を伸ばしていく。③定期テスト前や夏休みに基礎的な内容を理解できていない生徒に対する補習を行う。④ワークシートの内容が充実するよう、継続的に指導する。また、ワークシートの点検で誤解や理解できていない内容の修正を行う。</p>

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（英 語）

東京都北区立赤羽岩淵中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年			
2年	<p>「言語や文化についての知識・理解」以外の項目はすべて、区の平均と目標値を上回っていた。上の項目は、区の平均は4.6点上回っているが、目標値には0.5点足りていない。この点が一つ目の課題となる。目標値よりも最も大きく上回っているのが、「外国語表現の能力」であり、4.4点上回っている。ALTの授業とのつながりが適切に行えているのだと考える。授業では、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」という点を向上させることに力を入れているので、その項目が、目標値よりも0.3点しか上回っていないことが、2つ目の課題である。</p>	<p>「言語や文化についての知識・理解」の能力を向上させるための改善案は、「言語」については、黒板と電子黒板をバランスよく使用し、電子黒板で視覚的に知識を学べる活動を行い、その後、黒板の板書で、その日習った文法事項などをきちんと理解させる。文化に関しては、教科書に載っている内容だけでなく、ワークに載っている内容にも触れ、文化への知識も高めさせる。 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」をさらに向上させていくためには、引き続きペアワークを多く取り入れていきたい。また、インタビュー活動をする際のワークシートも引き続き工夫し、自分でビンゴを作る内容や、教員とのチェック項目もいれて、関心意欲が高まるようにしていきたい。</p>	<p>授業は、語彙力の向上につながる「ビンゴ」活動と、読む力、聞く力、意欲・関心の向上につながる「英語の歌」のローテーションで始めている。授業の始まりにやる気を引き出せていると感じているので今後も続けたい。ワークシートの課題には基本問題と発展問題の両方を設けている。単語の小テストを2回もしくは、3回の授業に1回行い単語の定着に役立てている。また、レッスンが終わるごとに、まとめの小テストを行っている。授業の途中で、生徒が生徒に説明をする時間などを設け、意欲を維持させながら、全体で確認している。</p>
3年	<p>4技能(読む・書く・聞く・話す)のうち、聞く・話すについては意欲的であり、英語が得意・不得意に関係なく態度が積極的である。学習したことを自分で使う場面が多い内容は成績も比較的良い。しかしながら、読むことについては、内容が込み入っていたり長くなると解決に戸惑うことが多くなる傾向にある。英問英答による理解に取り組ませながら、既習事項の復習に丁寧に取り組むことで解決を図りたい。4技能のバランスをとりながら、言語についての知識・理解を着実に定着させる指導の工夫をしていきたい。</p>	<p>授業は「ビンゴ」で始め、語彙力の向上に繋がるウォーミングアップとしているので今後も継続する。毎時間の目標を明示して、4技能の何を学ぶのか、評価のポイントを明示して目標をはっきりさせることで関心・意欲を高めるようにしたい。電子黒板を利用して視覚に訴えることで、教科書のどこを学習しているのかわかるようにし、顔を上げている時間をできるだけ長くするようにしたい。特にシャドーイングには積極的なので継続する。「理解」の観点では、難易度に配慮にすること、「書く」観点では、言語についての知識をどう活用すればよいか指導し、基礎力の向上に繋げ</p>	<p>ワークシートの課題には毎回補充内容と発展問題の両方を設けている。ノートとワークシートの点検を小まめに実施し、要点や自分にとって大切なことを自分の言葉でまとめるように指導を継続していく。得意・不得意に関係なく基礎的な問題には誰でも出番があるような活動を今後も行う。小テストを週1回実施し、基礎から発展的な問題まで幅広く復習する機会を今後も持つ。行き詰ったときは、発展的な課題に取り組みたい生徒に説明させるなどして、意欲を維持させながら基礎的な知識を全体で確認する。補充教室は基礎を、質問教室では発展的な内容にも取り組めるようにして</p>